

「子どもの日本語教育研究会」第2回ワークショップ
テーマ別ワークショップ3: ライフコースを見据えたキャリア教育

WS提案「一生を通じての自己変容, 社会変革を目指したキャリア教育」 山田 泉

0 自己紹介

1979年-1982年 中国帰国者, 中国人客員研究員対象ボランティア日本語学習支援
1982年-1984年 中国: 大連外国語学院日本語教育担当
1984年-1985年 中国帰国者定着促進センター日本語教育担当
1985年-1988年 文化庁文化部国語課専門職員
1988年-1993年 昭和女子大学文学部日本文学科教員
1993年-2003年 大阪大学留学生センター教員, 同人間科学研究科兼担教員
(1996年-2003年) 財・とよなか国際交流協会「子どもメイト」メンバー
2003年-2017年 法政大学キャリアデザイン学部教員(現在, 同兼任講師)

1 自己実現の過程の歩み方

人は一生を通じて自己実現の過程を歩む存在

マズローの欲求の段階説(1987『人間性の心理学』産能大出版部)

多様な文化の中にあつての人としての共通点: 人として「生きる」ということ
生き方の多様性から学ぶ「自らの生き方」

事例1: 老婆と二人の孫

2 「移住者」という人生

社会側から見た「移住者」(「移民」)

「移住者」側からみた社会

3 「キャリア」, 「キャリアデザイン」とは?

キャリア = 人生(life)

キャリアデザイン = 人生の設計, 再設計

法政大学キャリアデザイン学部英語名称: The Faculty of Lifelong Learning and Career Steadies

人生 > 生活, 仕事(生業: 職業, 家事労働, 社会的活動, …)

4 キャリアを教育の対象とすること

就職,「就活」についての教育?

「人生」という視点から考えたキャリア(生涯学習)

「自分とは何か」→ 仮に自分を座標軸に据える(アイデンティティ)
歴史的な存在としての自分/社会的存在としての自分

事例2: 「お母さんは「いる」のではなく、「なる」んですね」

事例3: 肉親の生き方を聴くということ

5 外国につながる子どもの社会参加

「生き方」という視点から考えた職業(自己認識と職業)

人は仕事を通じて「社会」(人々が生きる場)とつながる

外国につながる子どもたちの特性

日本社会の「仕事」文化についての知識

←→ 日本の子ども:ロールモデルとしての保護者等の存在

6 社会参加支援のあり方

支援者: 身近な支援者, 専門職としての支援者

専門職間の連携

外国につながる子どもの特性の理解

日本語について: 「学習言語」の問題(職業と国家試験)

職業観(日本の職業文化)について: 体験学習の方法

支援と自立

7 特性への配慮

複数の帰属先を持つことへの配慮

親子間の文化(世界の見方)の相違への配慮

キャリア教育 = キャリアデザイン(人生設計, 再設計)能力の養成